

なぎさ通信

葛西臨海水族園 周辺の海から

葛西臨海水族園 周辺の海から

第40号

December 2010

タイトル写真：「東なぎさ」のヨシ原からのぞむ水族園

水族園の周りで見られるカニは何種類？

葛西臨海水族園では、干潟や下の池での観察調査、地曳網、潜水調査などいくつかの異なる方法で生物の採集や観察をしてきました。2003年4月から2010年9月までに「西なぎさ」、「東なぎさ」、「葛西臨海公園」で記録されたカニの仲間は、実に20種類を数えます（表参照）。東京湾の奥に位置し、しかも東西2km、南北1kmほどの狭い地域にこれだけの種類のカニが生息しているということに驚かれた方もいらっしゃるかもしれません。水族園の周りは、江戸川、荒川の河口になっていて海と川の両方の生物が見られます。しかも、「西なぎさ」や「東なぎさ」のような干潟があり、カキ殻に覆われた護岸もあります。汽水の「下の池」には泥干潟があり、淡水の「上の池」もあります。この2つの池の周りは湿った林になっています。このように狭い地域ながらも多様な環境があるからこそ、すみ場所や生態が異なる多くの種類のカニが住みつく結果になっています。（飼育展示係 池田正人）

葛西臨海公園で見られるカニの仲間

標準和名	生息地
1 ベンケイガニ	下の池周辺
2 カクベンケイガニ	護岸
3 クロベンケイガニ	下の池周辺
4 アカテガニ	水族園から下の池周辺
5 アシハラガニ	下の池、東なぎさ
6 ウモレベンケイガニ	下の池
7 モクスガニ	旧江戸川河口、下の池他
8 イソガニ	西なぎさ
9 タカノケフサイソガニ	護岸、西なぎさ
10 オサガニ	西なぎさ
11 ヤマトオサガニ	東なぎさ、下の池周辺
12 コメツキガニ	西なぎさ
13 チゴガニ	東なぎさ、下の池周辺
14 マメコブシガニ	西なぎさ
15 イシガニ	西なぎさ、東なぎさ
16 チチュウカイミドリガニ	運河、下の池
17 ガザミ	西なぎさ
18 タイワンガザミ	西なぎさ
19 イッカククモガニ	運河、下の池
20 ユビナガホンヤドカリ	西なぎさ

なぎさの小さなサカナ便り⑩ アシシロハゼ

初冬の「西なぎさ」では、観察できる魚の種類も数も減ってきます。11月の地曳網調査では、数は少ないながらもアシシロハゼを採集することができました。

アシシロハゼは、北海道から九州まで分布し、9cmほどまで成長するハゼの仲間で、「西なぎさ」では一年中見る事ができます。この魚は内湾の汽水域に生息し、主にゴカイなどの底生動物を食べています。

さて、「西なぎさ」には、このアシシロハゼにそっくりなマハゼがすんでいます。この2種は、同じような生息環境を好むため、同時に採集されることも多くあります。そのた

め、慎重に同定することが必要です。では、この2種を確実に見分けるポイントはどこでしょうか？ 鱗や鱗の大きさ、体の模様などの違いもありますが、小型（3cm前後）の場合には、マハゼの背びれには1個の黒い点があることから判別が可能です。また、成魚では、マハゼが目から口までの長さが長いのに対し、アシシロハゼは短く、つまったような顔をしています。さらに、繁殖方法も異なり、マハゼが泥の中に穴を掘って産卵するのに対して、アシシロハゼは石や貝殻の下面に産卵し、雄が卵を守ります。東京湾での産卵期は、マハゼが2～5月であるの



アシシロハゼ（茨城県霞ヶ浦産）

に対して、アシシロハゼは6～7月と9月です。水族園が過去に行った調査でも、10～12月に秋生まれと思われる小型（3cm前後）のアシシロハゼが採集されています。また、最近の研究では、一足先に成魚になったアシシロハゼが、マハゼの稚魚を捕食するという「食う食われる」の関係があることも報告されています。（飼育展示係 橋本浩史）

「東なぎさ大クリーン作戦」に参加しました

11月9日(火)、「東なぎさ大クリーン作戦」に参加しました。クリーン作戦は、東なぎさの清掃活動です。主催は「都漁連内湾釣漁協とぎょれんないわんつりぎょうきょうざい協議会」で、「日本野鳥の会東京」、「鳥類園友の会」が協賛しています。水族園からも、時々数人が参加しています。

船で「東なぎさ」に渡ると、そこは白銀の世界でした。といっても、もちろん雪ではありません。一面、真っ白な綿毛のヨシ原が広がっていたのです。しかし、そんな風情に浸っていられたのもほんのつかの間。この日は朝からの強風でした。あちこちで色々な物が飛び始め、続いてヨシの綿毛が目にも鼻に次々と飛び込んできたのです。クリーン作戦

では、拾ったごみを分類して記録するのですが、その作業にも影響が及びました。ごみの分類は全部で48項目もあり、確認が必要な時がありました。そんな時、周りの方に教わろうと口を開くと…、その後はご想像どおりです。ごみの分類は、ごみへの関心を高めるための大切なデータ。しっかり記録しなければなりません。各自、手ぬぐいやマスクで顔を覆い完全防備で格闘を

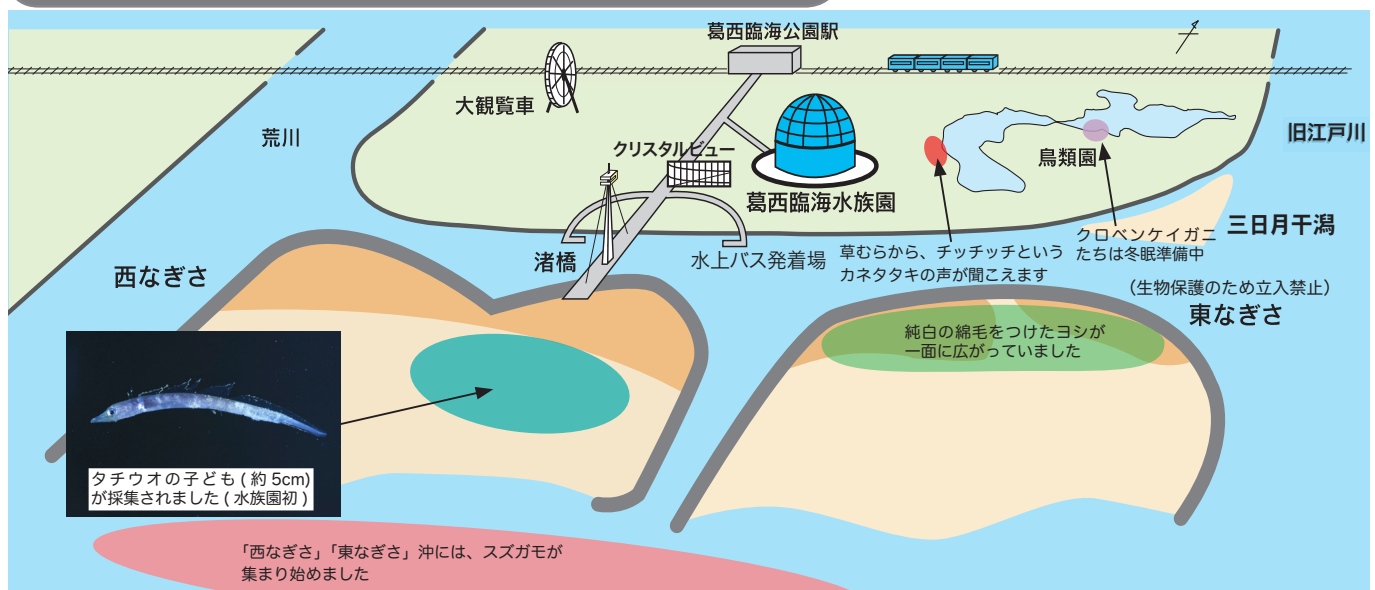


続けました。そして1時間後。悪戦苦闘しながら集めたごみは、60ℓごみ袋にして約300袋分にもなりました。

清掃活動に続いて行われたのが、恒例の生物観察会です。「東なぎさ」の生き物を専門家の解説で観察しました。東なぎさは、ふだんは立ち入ることのできない生物保護区ですから、この観察会は参加者にとって特別な思い出となったことでしょう。全身綿毛まみれになりながら、目を輝かせて話を聞く参加者の顔がとても印象的でした。(教育普及係 齊當史恵)



初冬の水族園周辺生き物マップ



●●●初冬の西なぎさ●●●

11月の地曳網調査で確認された生き物は、ハゼの仲間数種と、イサザアミ、アキアミなど。暖かい時期に比べると少し寂しい結果でした。生き物が賑やかな季節も終わり…と、思っていたところ、翌月の調査ではなんと、水族園では初となる、タチウオの子どもが採集されました。水族園が行っている調査は今年で12年目になりますが、私たちがまだ見ぬ西なぎさがあるのだと思うと、本当にワクワクします。

編集後記：9年なら、そろそろ冬眠を始める、葛西のカニたち。11月のある日、いつものカニ観察ポイントに様子を見に行くと…。ベンケイガニ、クロベンケイガニは、まだ冬眠準備の段階でした。今年は比較的暖かいので、冬眠が遅れているのでしょうか…？